

七十代のつぶやき

平澤 希代子（7組）



七十歳になり、敬老パスがあつて鹿児島市に感謝！ それは鹿児島市内を走るバスと電車に三分の一の乗車料金で乗れるようになったから。

劣等生と言われた語学の帰り電車で立っていたら「どうぞー」と若者が立ち上がった。「私に代わってくださったの？」と聞くと「ハイ」と言う。戸惑ったが「ありがとうございます」と席に着いた。

シヨックだったが、このカプルの人達は私の孫と同じくらいの年齢の人達だ。昔、私の姑が電車で席を譲られて怒って「電車を降りた」と言っていたのを思い出した。

お昼の電車乗客十三名、そのうち十一名がメールしている。メールを打ちながら寝ている人もいる。何だか淋しい光景・・・声の便だと相手の身体の具合や気嫌の良し悪しも解るのに。私もメールは好きだけど、打つのが遅い。

電車は心地良い。電車の揺れ具合、バスの揺れ具合はモーツアルトの風と空気と湖を感じさせる旋律だそうだ。だから心地良い眠りに誘われる。

昼食後、ポケッツとしていたら、何となく子供の頃を思い出す。思い出は楽しい事だけが残る？

春の桜の頃は、家族でいつも水源地公園に花見、夏の磯海水浴場・・・父は胸のあたり迄海に入り「ハイ ここから先は絶対に行ったらいけない！」

だから私は今でも「ここは深い！」と思つた瞬間水の中に沈んでしまふ。帰りのアイス饅頭が楽しみだった。

エノケン・ロッパの映画がくると、娘達迄一緒に連れて行きだがり、ある日「八十日間世界一周」の映画がきた時は「一緒に映画に行ってくれないか？あの中のもーリスシユバリエが好きなんだ」と言うので一緒にいって行った。

母も妹達も何故か行かず、私だけがつき合つたけど、気球で旅行をする楽しい映画だった。



お正月、目が覚めるといつも枕元に新しい大きな花マリと履物が置いてあった。私は両親にいろいろしてもらつたけど、その半分もお返ししていない。

学年同窓会旅行、七十三歳で最後の旅行と思ひ参加した。予定変更してもらつた為、行けなくなった人がいて本当に申し訳なかった。

高野山には織田信長、豊臣秀吉、徳川家康のお墓があり、その時代の人もここを歩いたと思つたら不思議な気がした。那智の滝では、滝の裾に虹が出て美しかった。

ここで岩から流れる水があり、一杯飲んだら寿命が十年延びるという水を三杯飲んだ。百歳まで生きることになるが、どうしましょう。

伊勢神宮は人が多く、人に押されて内宮だけだったので、いつか一人でゆっくり外宮も歩きたいと思つた。

興味本位で整体の学校に通い免許を取得したが、歩けなくなった母を看ながら自宅で仕事が出来たことは、良かったと思つた。

胎教というものがあることをこの仕事をして、ほんとによく理解できるようになった。独身時代から来ていらしたお嬢さんが結婚されてからも、妊娠されてからも来ていらしたが、その赤ちゃんは、生後二、三ヶ月でもニコニコ笑って整体をさせてくれるし、ハイハイする頃になつてもお母さんが済んだ後、自分から治療する場所に来る。赤ちゃんでも便秘があるし、少し高い所から落ちたのが原因で耳から汁が出たりする。

「この頃、気嫌が悪かつたり、イライラしているから」と小学生を連れて来られると骨盤がすくすくずれている。

昔、料理の先生が「大根もさつま芋も形の良いのがおいしい」と言われたが、人間も縦、横、斜めに骨も筋肉もバランスが良いと元気だと思つた。

今時の男の子は面白い？

「ガ二股を治してください！」と突然言つて来る「ガ二股の治療はしていません」と言つと「僕の友人はここで治りました」と言つ。「では一応、体を整えましょう」と一通りすますと「あゝ 良くなりました！ 治りました」と帰って行った。

お母さんと一緒に来た男子高校生「身長が伸びるよに・・・痩せるよに・・・目が大きくなるよに・・・」と言つ。お母さんが「この子は隣のクラスに好きな子が出来て痩せる為に弁当も食べない！」

家ではほとんど口を開かないけど、伊集院からこちらへの往復は、親子の会話が出来る有難いです」と言われる。その子も今は大学生である。

この仕事を始めて二十四年、赤ちゃんから八十代まで、老若男女のお客さまといろいろ話が出来て楽しい。

自分の身体を守りながら、もう少し続けてみようと思う。

安田会長の会というのに誘われた。玉龍高校に一徳円寄付された人とはどんな人か以前から気になっていた。昭和三十年代、高麗町に住んでいた頃、近所で回覧板を持って行っていたが、このころは白い割烹着を着られた奥様にしかお目にかからなかった。

興味本位でその会に参加したが、やはり母校に大きな寄付をされる方は違っていた。私は凡人なので大きい寄付については奥方様や子供さん達との間でいろいろ葛藤があられたのでは、と気になっていた。でも、お会いして感激した。

身体中から柔らかい気が出ていらして、まるで祝人形の翁や花咲爺さんはこんな人？と思わせるお顔の方だった。

後で後悔した。写真を一枚写させていたでいて、その写真を毎日眺めていたら私も少々の事に怒る事もなく、穏和な人になれるかも。

私の仕事は病気を治すお医者さんではない。

人は皆、治癒力を持っているので、その治癒力を引き出す手伝いをしているのです。

午後の犬の散歩の時、久し振りに公園の方へ行っただ。この公園は、最近シルバークートボールに使われているのだが、久し振りに子供たちを見かけた。

六名の男の子たちがしゃがんでるので近づくと、それぞれゲームをしている。皆、違つゲームを一生懸命やっている。一言も話さないで……

「公園でゲームやってるの？」と訊くと、「ハイッ！」と答えただけ、おばあちゃんから見ると異様な感じ。

「走りまわって遊べばよいのに！」

「一人ぼっちでなくて、友達と一緒にということと良しとせねば……」

時代はどんどん変わって行く。

お正月甥が家族揃って挨拶に来た。

「おめでとうございます。整体お願いします」と小学一年の甥の長男。

「駄目よ！お正月なのよ！」とお嫁（甥のお嫁）さん。

「お願い、お願い……」と云うので簡単にしてあげた。

「アー気持ち良かった！文音もしてもらいなさいよ」と弟に云ったが「嫌だ嫌だ」と逃げるので「パパもして貰ったら……腰が痛いって言ってたよー」

「パパはいいよー」と遠慮したので「じゃあーどうぞー！」と調整したら「あつ治

ってる！」と甥。「でしよー！」と小学一年生、

「スミマセン……皆帰るよー」とお嫁さんが気の毒がって早々に帰って行った。次の週、妹が孫と来た「お姉さん、この間はお正月早々、整体をしてもらったぞうでメンナー」と云った。

「でもママはしなかったんだよ。ママも腰が痛かったんだよ」というので、「じゃあ、今度はママもしてあげるから」と言ったら、「お願いねー、約束ねー」と帰って行った。

福岡に転勤で行かれた五十代の男性から電話があり、「どうしたら良いか解らない……母が胆嚢の手術をするんです。毎日、仕事も手に着きません。父の時は何ともなく、心は安定していたのですが……」と云われる。

「手術の日も定まっているなら、お医者様におまかせしたらどうですか？今は昔と違って、技術もあがっているから大丈夫よ。」と答えた。

無事、手術も成功して母上も元気でおられる。

知覧の特攻隊記念館の少年達の手紙のほとんどが、「拝啓、母上様」、「母上様、ありがとうございます」、「母上様、今迄お世話になりました」とある。

母は本当に偉大である。

小学時代の同級生の母上のお通夜があった。

最近のお通夜やお葬式会場では、今迄と違う気分である。だんだん私も近づいてくるのだと、つくづく思う。そしてこのお葬式会場で死について語り合った。

最後の時、孫達に囲まれて

「今迄、沢山遊んでくれてありがとうね！バイバイ！」と云って、逝けると良いと思う。

●フィギュアスケートフリーで羽生選手が転んだ！

金メダル確実の人なのに……アーアー！

次はカナダのパトリック・チャン選手（メダル獲得候補者だ）

奇跡が起こって転ばないかな？……と思つた瞬間

転んだ！ウソ？「ついでにもう一回！」と祈った？

再び転んだ「ヤッター羽生君バンザー！金よ金」

夜中に一人で叫んだ。

イケナイ、イケナイ悪心。

「オリンピックの神様、コメンタサイ……そしてありがとうございます」